PHYSOR2018 参加報告

近畿大学大学院
総合理工学研究科
修士 2 年　中嶋　國弘

2018 年 4 月 23 日から 26 日にかけて国際会議 PHYSOR2018 が開催された。開催地はメキシコのカンクンでユカタン半島の先端に位置し、カリブ海に面したリゾート地である。カンクンとはマヤ語で蛇の巣を意味し、蛇のような地形をしている。英語に自信があるわけではないが、開催地の魅力から「必ず行こう！」と決意していた。メキシコへはアメリカを経由し、24 時間以上の時間をかけて到着した。到着した 22 日は午後 7 時からウェルカムレセプションが行われたが学生は参加できなかった。とても残念だった。

会場のホテル入口

ビーチ側からのホテル外観

発表は 25 日水曜日午後一番のセッションで「Experimental Investigation on Probability Distribution on Neutron Counts in Nuclear Reactor（原子炉内における中性子計数の確率分布に関する実験的検討)」を題目として発表した。少し緊張したが、発表自体は最後まで話すことができた。質疑はいくつか質問を頂いたが、なかなか英語を聞き取ることができず何度も聞き直す場面があった。発表後に「発表資料を送ってほしい」と興味をもって頂き、別の方からは「この資料を参考にしたらいいよ、是非読んでみて」とアドバイスを頂いた。まだ慣れない発表であったが一部の方に興味をもって頂き、とても嬉しく思った。同時に自身の英語力の無さやコミュニケーションの難しさを痛感することとなった。

PHYSOR2018 の参加者はメキシコと遠方にも関わらずアジア圏からの参加者が多かった。日本人学生の参加は私の他に名古屋大学の学生 2 名だけであった。名古屋大学の学生の発表を拝見したが、質問に対する回答がしっかり出来ていてとても参考になった。セッションの合間の休憩時間はポップコーン、綿あめ、アイスキャンディーなどが用意され、パーティのように賑わっていた。このような休憩時間は他国の研究者や学生と交流できる数少ない機会でもあったが、積極的に交流できなかったことを後悔している。

発表の様子（報告者）

会場の様子（名大の学生）

セッション合間の休憩時間の様子

某機構の TD さん
（本人の強い要望で掲載）

カンクンのリゾートエリアは地形の性質上、大陸側から隔離されたエリアとなっていてリゾートエリアの入口には警察による関所が設けられていた。このためかとても治安が良く安心して過ごすことができた。会場のホテル（Marriott Cancun Resort）で宿泊したが、レストランやバーがいくつかあり、室内の設備もとても充実していた。寝る前にチョコレートやお菓子を食べる習慣があるようで部屋に帰ると枕元にチョコレートやココナッツ菓子が置かれていた。

部屋の様子

タオルでつくられた魚

ホテルのロビーには日本人コンシェルジュが常時待機しており、家庭的なメキシコ料理店を紹介して頂いた。メキシコ料理店はカンクンのリゾートエリアにある唯一のショッピングモールにあり、タコスなどの料理や地元のビール、テキーラを楽しんだ。タコスには香菜が使用されていて想像以上に苦かったが、お酒とは良くマッチしていた。

ショッピングモール

メキシコ料理店

PHYSOR2018 の会場のすぐそばに観光ツアーのブースが常設されていた。そこで名古屋大学の学生と共にマヤ遺跡のあるチチェンイッツァのツアーに申し込んだ。ツアーの内容はマヤ遺跡とセノーテと呼ばれる泉の観光であった。ツアー参加者には国際会議に参加していた方々がちらほら見受けられた。行きのバス内ではガイドが遺跡に到着するまでの約 3 時間、絶え間なく話し続けていた。内容のほとんどは聞き取れなかったが、マヤ文明に関することを中心に話していた。(マヤ民族、マヤ語、マヤ暦、文字、仮面などの民芸品、遺跡、メキシコの南に位置する国グアテマラについてなど) 遺跡の駐車場に到着するとバスの周りに帽子の販売員が集まってきた。

マシンガントークのガイドさん

マヤ民族の仮面

帽子の販売員

入場ゲート

遺跡ではマヤのピラミッドがとても印象的であった。昔は観光客がピラミッドに登ることができたようだ。ピラミッドは不思議な構造になっていて、ガイドがピラミッドの前で音を鳴らすと音が複数回反響した。私もやってみたが反響しなかった。初期のピラミッドは現在より小さく、古いピラミッドを基礎としてその上に新たなピラミッドをつくり現在の大きさになっている。

ピラミッド

天文台

遺跡の観光が終わると遅めの昼食をとり、セノーテに向かった。セノーテは地下水脈の天井が陥没してできた地底湖で、水深は 50m 以上もある。ここで水着に着替え、セノーテに飛び込んだ。久しぶりの水泳でかなり体力を消耗し、足のつかない恐怖で楽しむ余裕はなかった。メキシコの気候は雨季と乾季があり、この時期はちょうど雨季に入る直前で、不運にもスコールに直撃した。

セノーテ

雨季の象徴スコール

まとめ

人生初めての国際会議への参加であったが、自身の英語力の無さや他言語でのコミュニケーションがいかに難しいことか実感することとなった。しかし、国際会議への参加は他国の文化と接する機会でもあり、短い期間で多くの経験を得ることができた。今後は、コミュニケーションが取れるよう英語の学習を継続し、様々な国の方々と交流を深め、自身の視野を広げていきたい。

このような貴重な機会、ご指導を頂きました多くの方々に深く感謝申し上げます。最後に、PHYSOR2018 の参加にあたり旅費補助を賜りました日本原子力学会炉物理部会に深く感謝申し上げます。

スナップ写真など